

第 14 回塩谷広域行政組合ごみ処理検討委員会報告

1. 日 時

平成 18 年 10 月 6 日 (金) 13 時 30 分 ~ 16 時 30 分

2. 場 所

塩谷広域行政組合 1 階大会議室

3. 出席者

| 職 名 | 氏 名 |
|------|---|
| 委員長 | (学識経験者) 西谷弘子 |
| 副委員長 | (さくら市) 菊池崇雄 (欠席) |
| 委員 | (矢板市) 長谷川健 小松高行 (欠席) |
| | (さくら市) 天野順子 蛭田幸子 関 忠司 (欠席) |
| | (塩谷町) 松尾享子 (欠席) 立岡芳司 |
| | (高根沢町) 飯泉八重子 君島 毅 |
| | (地元住民代表) 高塩克敏 岡田 明 |
| | (学識経験者) 小久保行雄 (欠席) |
| | (アドバイザー) 今泉繁良 (欠席) 中村祐司 |
| 職員 | (矢板市) 高瀬主査 |
| | (さくら市) 手塚副主幹 |
| | (塩谷町) 中山主査 |
| | (高根沢町) 金澤課長補佐 |
| 事務局 | (塩谷広域行政組合) 高久事務局長 磯室長 小堀主幹 片野係長 印南係長 斎藤主査 阿久津課長 館脇副主幹 |
| | (環境工学) 松本良二 山本方晶 |

4. 議事次第

1) 開 会

2) 第 13 回ごみ処理検討委員会検討結果報告

3) 報告事項

「ごみ処理検討委員会」の平成 18 年度提言項目と環境施設整備に係るスケジュールについて」

流木、刈草、剪定枝葉等焼却処理要望ごみ量の見直しについて

整備する施設規模について

その他

4) 議 題

「塩谷広域処理要望量」の確認について

環境施設の整備パターンとリサイクル協力率ごとの施設規模の見直しについて
その他

5) 閉 会

5 . 主な意見

1) 「塩谷広域処理要望量」の確認について

- ・特になし。

2) 環境施設の整備パターンとリサイクル協力率ごとの施設規模の見直しについて

- ・ P Aとはなにか。パーキングエリアである。
- ・基準の年度は何年ですか。平成 17 年度である。
- ・災害ごみの 20% というのは、発生したときの 20% であるのか。均して処理する場合、ある期間で処理する発想が必要ではないか。
- ・災害ごみというのはどういうものが入ってくるのか。粗大ごみ、畳なのか。
- ・災害の種類でごみ質は変わってくる。20%の量を毎日処理するのはどれくらいの期間で処理するのかによって20%の是非の判断につながってくる。
- ・災害ごみの処理量は、規模に対してもあるが、焼却対象量の20%の考え方もある。
- ・塩谷広域処理要望量は1.17倍との差はどうなるのか。
- ・処理能力の方からみてどれくらいがいいのか。130t/日ではないか。
- ・施設規模によって、費用は設備費はどれくらい変わってくるのか。
- ・災害時のごみは、280日以上の稼働で考慮できるのではないか。
- ・災害ごみは自区内だけの処理なのか。
- ・一般廃棄物処理基本計画のp.40の稼働日数も言えるのではないか。
- ・20%のうち10%の分は延長で対応して、残り10%を規模にしてはどうか。そして、リサイクルを増やし、仮置き場を設けてはどうか。
- ・災害はいつくるかはわからないものであり、備えるのは当然である。災害にかける保険は必要であるが膨大な費用をかけるのはどうかと思う。
- ・大きい施設をつくと建設費もかかり、ごみ減量化やリサイクルの意識も薄れるのではないか。
- ・ごみ量の予測において、余裕をみていないのか。余裕はみていません。
- ・プラスチックが汚れば塩分がつく。塩分があれば錆びる。焼却炉も錆びる。また塩化水素で錆びる。引き受けた側が10年経ったら施設を更新しなければならなくなる。本当に受け入れられるのか。
- ・樹脂関係では若松において4月からプラスチックと表示されているものをまとめて集めている。現在、混じったものを汚れていても引き取っている。ただし、使い道が限定されている。
- ・溶融スラグはJIS化されたのか。7月にJIS化されている。
- ・プラスチック専用コンテナなどの収集方法にしたりすれば、住民は協力すると思う。協力しない人はいないと思う。

- ・協力率は、高い目標でやるべきである。
- ・何%にするのはこれからの課題である。施設規模に付帯条件をつける。自分としては計画を立てて進めていくことがいいと思う。
- ・協力率50%の施設を建てる前に施策を立てていく必要がある。現在でもリサイクル率が上がっており、プラスチックについてもうまくいくと思う。
- ・現場の感覚では増えている。いいものを作ってほしい。小さいと誰がこんなものを作ったのかとなる。
- ・矢板市の職員の中にごみ減量課があるのも知らないものがある。
- ・リサイクルの現状、結果がでていない。
- ・結果を出すようこれからしていかないといけない。道路の投げ捨てごみが少なくなったので意識は良くなっていると思う。
- ・去年の12月に講演した人は、笑顔で協力について住民を褒めてくださいということであった。楽しくやっていかないといけない。無理な数値でいくのはよくない。

3) その他

- ・施設の建設場所は決まったのですか。まだ決まっていません。
- ・それでは、還元施設の提言も難しい。
- ・メリット、デメリット、これから作る施設に対して、これからつくる施設の内容について地域の人に分かってもらう行動をしないといけないと思う。地域の人に理解してもらうために、宣伝が必要である。お金を使ってでもやるべきである。言葉や資料だけでは難しいと思う。提言できるのはこの委員会だけである。できなければ各市町でやってほしい。納得ではなくて分かってもらう。
- ・今までの施設はマイナス面があることは圏内の人によく知っている。
- ・これからの近代的な設備なので立替用地として受入れられますか。個人的には、松島は場所の効率が悪い。どんなことをしてもごみの煙は煙。そんないいものではない。法律的にはいい煙だが35年受けたら変ってほしいと思う。跡地利用も設定し、分散した方がよい。
- ・何年間の協定ですか。持ち回りでやるべきである。
- ・住民説明においてお金をかけ、時間をかける必要がある。
- ・バグフィルターをつけているが、吸っている煙よりきれいだというのは住民への侮辱である。

以上